

人と人との関わり

石塚 由紀

その日は家の二階にいた。いつもと変わらなくゆくりと過ごしていると、突然ガラガラガラという音があからなかつた。階下から母の叫ぶ声が聞こえ、揺れが続く中、手すりを頼りに下へと降りていった。ようやく「地震が起きた」という事に気づいた。私の住む中越地区を震度五強が襲ったのだと、後でおか

った。

その後は外に出て近所の人達と広い道路に集まっていた。そこで改めて感じたのは、地域の人との関わりの大切さである。寒くて車に乗っていると隣の家の人が「おれ、コレイトやビスケットなどお菓子をくれた。外にコンロを出し、近所の人と一緒にみんなでおなべを食べた。そのおいしかったこと、寒い夜おなべは私のびまご温めてくれた。また、車を安全な場所に移動させるため、前の空いて川

土地を不動産屋さんから借りてくれた。こんな事から、助け合う事がどれほど素晴らしい事なのか、という事を痛感した。

地震はいざ自分の身に起こると予想以上に怖いものだ。だが、たくさんの物資や精神的な支援をしていただいた事で、今こうしてまた安定した生活を送る事ができているのだと思う。助けるために一生懸命動いてくれる人々への感謝の気持ちを決して忘れてはいけな  
い。困った時でもまありを気づかい、自分が  
らくたくさんの人々を助けてあげられたら、と思  
おう。「人のため」に動く事が生きていく上  
で一番大切なのではないだろうか。人のため  
に、そして自分のためにも、どんな時でもま  
ず落ち着き、そして少しでも多くの人々の役に  
立ちながら生きていこう、と強く思う。